

JN-HRD. NET ニュースレター

- 『材料試験炉（JMTR）等を活用した総合的な研修』が開催されます。

原子力産業の世界展開を支援することを目的に、日本原子力研究開発機構（以下、「機構」）では、国内の産業界で従事されている若手研究者・技術者、大学生・高専生等（外国人留学生を含む）を対象に、機構が保有する材料試験炉（JMTR）等を活用した総合的な研修を実施しています。今年度の研修では、原子炉で照射試験を行う際に必要となる核計算、熱設計、照射後試験及び中性子照射量評価に関する講義及び実習が行われる予定です。詳細は下記 URL をご覧ください。

http://jn-hrd-n.jaea.go.jp/pdf/20130426_JMTR_kensyu.pdf

研修期間 （第 6 回）平成 25 年 7 月 29 日（月）～8 月 9 日（金）

定 員 20 名

応募締切 平成 25 年 6 月 21 日（金）（予定）

【問い合わせ先及び申込み先】 照射試験炉センター 利用促進課 内藤、久保

Tel : 029-266-7010 FAX : 029-266-7471

E-mail : naito.akinori@jaea.go.jp

E-mail : kubo.ayako@jaea.go.jp

- 『IAEA 原子力マネージメントスクール』が開催されました。

原子力発電新規導入国における若手リーダーの育成を目的とし、東大、JAEA、JAIF がホスト機関である IAEA 原子力マネージメントスクールが、昨年に続き日本で平成 25 年 5 月 27 日（月）から 6 月 10 日（月）の約 2 週間、前半は講義を主に東京大学本郷キャンパス、後半は施設見学を主に茨城県東海村のいばらき量子ビーム研究センターにおいて開催され、海外から 15 名（11 カ国、主に東南アジア）、日本から 16 名（電力会社、原子力機器製造メーカ、JAEA、博士課程学生）合計 31 名の 30 歳前後の研修生が参加しました。今年度は日本人講師が多く登壇し日本オリジナルの内容が増え、かつ偏りの少ないバランスのよいカリキュラムになりました。一方研修生は原子力の知識を得るための講義の他、原子力関連研究施設や製造メーカの現場で日本の技術力を直接見ることができる施設見学、国際的なリーダーシップを身につけるためのグループ討議などのプログラムに積極的に参加して有意義な時間を過ごすとともに、次世代の原子力界を担う世界の若者同士のネットワークも作ることができました。本スクールは世界で活躍する人材育成の観点から国内外からの期待も大きく、来年度も 6 月に同規模のスクールが日本で開催されることがほぼ決まり、事務局は早速準備に着手する予定です。

- 今年度各分科会がスタートしました。

*『高等教育分科会』

5 月 13 日に第一回分科会が開催され、（東工大井頭主査）今年度の活動方針や高等教育関連活動マップ化と大学生動向調査途中経過、就職前の学生を対象とした施設見学会の企画

案が示されました。その他高専機構が製作した原子力テキストが紹介された他、各大学から学生の原子力離れの現状についての報告がありました。

＊『実務者段階人材育成分科会』

5月17日に第一回分科会が開催され、(四国電力徳田主査)福島事故後の人材育成改善策のアンケートについての結果報告及び今後のまとめ方が議論された他、JNESとの意見交換会の報告や今後の進め方、NWホームページへの掲載活動状況や今年3月に実施されたネットワーク運営委員会での近藤委員長のコメントについて報告、若手討論会のPRと参加依頼がありました。

＊今年度第一回『国内原子力人材国際化検討分科会』は6月20日に、『企画ワーキング』は7月26日に開催予定です。

●『サブワーキンググループ』の発足

昨年度の原子力委員会から提出された人材育成に対する見解にネットワークとして対応する必要があることから、今年度は企画ワーキングの下部に少人数の作業チームを発足させ、名称を「原子力人材育成ネットワークの今後の進め方検討 W.G」としました。具体的には原子力産業協会の津留氏が主査、山下氏(JAEA) 齋藤氏(関電) 前田氏(内閣府)が全体確認、上田氏(原産協会)と寺門氏(JAEA)が事務局を務め、原子力人材需給ギャップ予測、様々な教育整備、国際展開への取り組み等について現状を確認して今後の進め方をまとめる事としました。今後2週間に一度程度会合を持ち、8月頃までに中間とりまとめの見解を公表する予定です。